

第2回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会

第1回 瑞穂市地域福祉活動計画策定委員会 会議要旨会議録

決定事項 議事録

- ・委員会全公開、当日傍聴希望者なし、会議録について要点筆記、発言委員の記載、議事録は会長、副会長に確認後HPなどで公開することを委員全員の挙手により承認。
- ・今回から地域福祉活動計画の策定委員会を兼ねて開催し、委員は地域福祉活動計画策定委員を兼任となる。

協議事項 議事録

協議事項 アンケート調査結果からみる現状と課題について

事務局・委託業者説明

アンケート調査結果からみる現状と課題について説明

意見聴取・質疑応答 アンケート調査結果からみる現状と課題について

畦地会長：事務局からアンケート調査結果からみる現状と課題について説明があった。委員の皆様からご意見、ご質問等を賜りたいと思うが、いかがか。

福井委員：10頁の問11について、ニュースで高校生のバスの送迎で死亡事故が起きた。ここに出ている外出の支援や買い物の手伝いは、「車を代わりに出す」という支援になるが、命に関わるような、ボランティア保険でカバーできない部分で起きる責任を、今新聞やネットニュースでも取り上げられていて、善意では限界があるという部分が浮き彫りになっている。本当に無償でいいのか、地域のボランティアが行うとなったときに、命に関わるような何か起きたときの責任の所在が宙ぶらりんになる。このアンケートや昨今のニュースの中で強く感じている。

また、20頁の問15について、仕事を通して、ボランティアをしたいという相談は結構受ける。高齢者やネット世代の方に、どこに行けばボランティアができるのかという入口が全然無いと普段から感じている。

畦地会長：もし何か事務局から何かあれば。今のお話だと、ボランティア活動における責任問題や情報の入手の仕方についてももし何かあれば、教えていただきたい。

事務局（佐藤健康福祉部長）：社会福祉協議会で、買い物支援事業を行っている。ボランティアが運転をしているが、そこでも運転手をしてくれる人がなかなかいない。「保険

は入っているが、もし何かあったときに責任を取れないので怖い」という話をよく聞く。先ほど福井委員が言われたように、そこは一番我々も危惧しているところ。意識はあるが、もし何かあったときのことを考えると踏み込めない。ただし、そこは個人の想いなので、「いや、そんな心配はいりませんので」とも言えない。そのあたりがずっと懸案事項で継続しているというのが現実。

また、ボランティアの窓口がどこなのかということだが、高齢の方は、市役所にとりあえず聞いてみようという方が結構多い。まずは市役所のどこの課でもよいので、知っている番号に電話をして、ボランティアをしたいがどうしたらいいか、と相談してもらえば関係する課につなぐ。そのような方法が一番いいかと。ホームページや広報を見るように案内しても、どこを見たらよいのかわからないという方が結構お見えになる。

畦地会長：図らずも質疑という形にさせていただいたが、質疑にはこだわらない。意見を出していただき、今の話は重点事項というか、今後計画を作っていく上で、意識もアップデートしなければならないし、やり方も変えていかなければならない部分があるという意見だと思う。そういう意見をここで積み上げていく形にしていきたいが、他に意見がある方。麓委員どうぞ。

麓委員：このアンケートの結果を踏まえて、助け合いの意識の希薄化、災害時の対策、交通の便、の3つが大きな地域の課題だと思う。それにプラスアルファして、こどもの見守りという課題が出てきた。先ほど福井委員から、ボランティア活動をどこに相談したらよいかかわからないとあったが、確か何年か前も同じような感じだったと思う。ボランティア活動をしたことがない人が多いのは、ボランティア活動をするという気持ちはあるが実際にできていない。社会福祉協議会や外部ボランティアが講座を開いているが、参加率が低い。その理由は、例えば働いているからかもしれないが、ボランティアという形にとらわれ過ぎて、そこに縛られるのが嫌だから、ボランティアを「やっているけど、やっていない」というような答えになるのかと思った。いちいち「ボランティアを養成する」とか、この計画の中に入れるのではなく、例えばサロンなどのコミュニティで防犯や防災というものを目標にしたほうが早いのではないかと思う。ボランティア講座の昨年度の数値指標がクリアできているかというとはほとんど変わっていない。つまりやってきたことに対しての成果は出ていないとなると、今回策定をするにあたっては「ボランティア活動者を増やす」という切り口を変えたほうがいいと思う。市民には、顔の見える付き合い、小さいコミュニティがある。そういう付き合いの中で防災に繋がっていくという考え方をすれば、わざわざ防災の講座を開きます、とはならない。そもそもある活動の中で防災をどう広げるか、という活動になると思う。地区社協でやるのか、サロンでやってもらえるのか。こどもの見守りについても子ども食堂でそういう教育をしたらどうかとか、その方が浸透が早く、住人同士も顔の見える付き合いができて安心して暮らせるのではないか。わざわざ住民に参加してもらおうとか、担い手を増やそうと

いう発想をやめるというのは大事ではないか。地域福祉の視点を少し変えていったらどうか。

畦地会長：ボランティアを大上段に構えるのではなく、コミュニティ活動の一環として、日常的なものとして見ていくという方向で計画を作っていた方がいいのではないかと、いうことでよろしいか。

麓委員：はい。

畦地会長：続いて太田委員、よろしくお願いいたします。

太田委員：集計について聞きたい。1つ目、1頁の5番、郵送回収が501件で、小数点以下を四捨五入すると25.1%になるのではないか。2つ目、7頁のクロス集計表について、性別・年齢別・小学校区別・居住年数別の各項目を足しても有効数の760にならないのには理由があるのか。3つ目、最高点のところが網掛けになっていると思うが、この辺の注釈がいらないのか。4つ目、6頁の棒グラフについて、前回の報告書を見ると、比率の高い順に並んでいたものが、今回は項目順ということになっているというところは、前回到合わせた方がいいのではないか。この4つがまず集計に関すること。

中身については、8頁“暮らしやすい”の校区別を見ると、前回データと比較したときに小学校区によって偏りがある。これは先ほど言った、交通の便が悪いことやスーパーが無いなど、いろいろな理由があるのだろうが、この辺の特徴的なところを前回データと比較すると如実に表れている。また、若い世代は暮らしやすいが、高齢になるにしたがって、「とても暮らしやすい」という人が極端に少なくなっているという傾向は、どこかに課題があるのだろうと思った。

続いて34頁の間24について、ここも年代別に見ると、高齢になるにしたがって「利用したくない」が多くなっている。これは成年後見制度の印象が悪いのではないか。高齢になるにしたがって悪い情報が入ってくる。お金を自由に使えないだとか、弁護士や家族・兄弟が使い込んでしまうというようなニュースを耳にすると、こういった制度を利用したくなくなる人が多いのだろうと感じた。

続いて41、42頁について、「孤立」と「孤独」が同じぐらいの比率で出ている。このデータを見ると、「孤立」と「孤独」の解釈が混同しているのか、どこが違うのかというところもあるのではないか。皆さんがどこまで把握しているのか。

続いて44頁の間31について、前回データと比較して上位3つがほとんど同じ比率で出ている。ということは、前回から今までの成果がどうだったのか、そういったところを比較する必要があるのではないか。同じように考えられるのが、53頁の間37や、55頁の間38も同じように、前回と同じ課題ということが言える。今までの成果はどうであったか。前回の活動計画書があるので、反省を踏まえた上での策定ということになると

思う。達成したのか、未達なのか、また継続課題かどうか、新たな課題なのかというところを踏まえた上で策定する必要がある。

畦地会長：それぞれのことについては、議事録の方で確認することにしたいが、これまでの計画で、成果が上がっているかというのを、アンケートの結果を見ながら、確認していくべきだという、そういう全体像でよろしいか。

太田委員：はい。

畦地会長：それと、数字が違うところについては、委託業者からの説明を求める。

事務局（委託業者）：1つ目の郵送501件については、25.05%だが、少数点第1位までの数字を載せているためである。

太田委員：そうすると、「無効」の0.1%がおかしい。無効の1件は0.05%のため0%になるのではないか。辻褄が合わない。

事務局（委託業者）：0%にしてしまうと無効の1件が反映されないため、0.1%としている。

畦地会長：必ずしも足して100%ではないということによいか。

事務局（委託業者）：はい。

畦地会長：もう1点、グラフの順番が項目順になっている点について、これは手直しすると大変か。

太田委員：前回と異なるということを指摘した。

事務局（委託業者）：今回は質問順にしているため、ご容赦いただきたい。

畦地会長：どちらかという質問順に並べるのが普通だと思う。前回の並べ方がおかしかったのかもしれない。グラフ等については、そういう形ということでご了承いただきたい。服部委員はいかがか。

服部委員：麓委員が言った通り、「ボランティアをしたいか」という設問について、ボランティアとは何かというところに引っかかったのではないか。自分がどんなボランティ

アができるのか、興味があるのか、その選定が必要。こどもに対するボランティア、高齢者に対するボランティア、障がいを持った人、地域のこどもたちに何かやりたいとか。「ボランティア」という言葉の重みがとてもある。ボランティア活動という言葉がすごく重たい。いろいろ考えてしまって足踏みするのではないか。そういうところでやりにくいのではないかと感じた。

畦地会長：ボランティアという言葉にこだわると、活動がしづらいということかと思う。そのあたりは十分に論点に載せていかなければならないと思う。今服部委員がおっしゃったこと、ちょいボラ、ちょボラという言葉厚生労働省が流行らせようとしていたが、本当は「ボランティアをやるぞ」と言って突っ込んでいくものではない。でも、こうやって質問紙にすると、「やらない」となってしまう。その辺の議論をしていくべきだと思う。他の委員の皆様はいかがか。

福井委員：追加でよいか。

畦地委員：福井委員、どうぞ。

福井委員：10頁データを見ていて、「災害時の避難支援・安否確認」と「防犯のための巡回」が圧倒的に高い。今関東で強盗事件が起きていて社会不安が高まっているためということがうかがえる。ボランティアで見回りをするのも、もちろん方法の1つだが、信頼性がないと逆にそれが不安をかき立てるというか。個人情報共有することで守られる部分もあるが、逆に危なくなることもある。財産を持っているだとか、いろいろ思われてインターネット等で情報が拡散してしまうこともある。そもそも防犯のための巡回がボランティア頼みでいいのか。これだけ詐欺などの犯罪に対する危機感が高まっている中で、これが圧倒的に高いというのは意外だと感じた。

畦地会長：様々なことが読み取れる調査結果になっている。他にご意見いただける方はいるか。

では続いて、庁内関係課による施策評価について事務局から説明をお願いする。

協議事項 庁内関係課による施策評価について

事務局説明

庁内関係課による施策評価について説明

意見聴取・質疑応答 庁内関係課による施策評価について

畦地会長：ただいま事務局から説明があった。ご質問・ご意見・ご感想など発言をお願いしたい。

ちょっと委員の皆様から発言が無いので口火を切らせていただく。社会福祉協議会で、外国人の支援については非常に苦労していると言っていたが、外国人はこれから人口減少するにしたがって、瑞穂市内でも絶対に割合が増えてくると考えられる。それに対する将来に向けての道筋は作っておくべきではないかと考えていた。

では福井委員、どうぞ。

福井委員：1 ページ目に「共同募金運動の充実」とあるが、募金や寄付に興味がある方が多い。例えばお歳暮やお中元でもらったジュースや、未使用の化粧品で自分の肌に合わないもの、状態の良い服などをどこかに寄付できないか、この地域だとどこが良いのか相談されることがある。売ってお金にしたいわけではなく、断捨離とかの中でまだ期限があるものをどこかに寄付できたらいいなというのはよく聞く。たまに預かって、お子さんがたくさんいるところに持っていくということはしている。そういう物質面での寄付を福祉の中ではどう考えているか。どのような現状なのかというのを聞きたい。そういう活動についてあまり考えていないということなのか、その辺を聞いてみたい。

事務局（佐藤健康福祉部長）：不用品のリサイクルは、少し前までは女性の会がフリーマーケットなどをやっていたが、現在それをやっているか情報が今無い。そういった団体に委ねることしかできないと思う。

事務局（社会福祉協議会北川課長）：社会福祉協議会の方でも、未使用の不用品を寄付という形でいただき、適切なところに配っている。共同募金のお話から来ていると思うが、共同募金は期間が10月1日から年末までに募金をしていただいたり、自治会を通して協力いただいたり、いろいろなかたちで募金の協力をいただいている。

畦地会長：他に何かあるか。麓委員、お願いします。

麓委員：この「支え合い、助け合う地域をつくる」というのは前の計画に対してのことですよね。「十分」・「あまり十分でない」・「ある程度」という評価は何を基準にして“ある程度”なのか。例えば「著名な講師による講演会を定期開催し、地域福祉に関する意識啓発を行っている。」の評価が“ある程度”と出ているが、“ある程度”というのは、定期的に年に何回とか数値目標があつての“ある程度”なのか、誰かの肌感覚なのかというのを知りたい。先ほど民生委員を知らないアンケートに出ていた。本来は多分これが先に出て、それに対してアンケートを決めるのだと思うが、ある程度頑張ってやっているが住民は理解していないということであれば、啓発の仕方が違っているというだけの話ではないか。基準になるものはあるのか。

畦地会長：事務局お願いします。

事務局（日比野）：特に数値等があって、どれだけの達成度かというものは無い。簡単に言ってしまうと肌感覚で評価している。評価は、十分・ある程度・あまり十分ではない・不十分・未実施の5段階。麓委員にご指摘いただいた通り、いわゆるPDCAのところで、今回は順番が前後してしまった。今度またこの評価については皆さんに披露して、やっぱりここができていないから、こういうアンケート結果になっているというところの分析をして、次の計画に反映させていきたい。

畦地会長：その他、ご質問・ご意見・ご感想等あるか。服部委員お願いします。

服部委員：21頁のゲートキーパーについて、ゲートキーパーの講習を受けに岐阜市まで行った。瑞穂市では無かった。なので、評価で“ある程度”と書いてあるので、残念だと感じた。ゲートキーパーという言葉が、アンケートでも認知度が低かった。25年度は大人の自殺者は減っている傾向にはあるが、こどもの自殺は全体的に増えているという数字が出ているので、ゲートキーパーという言葉を知ってもらえるような仕組みを作ってもらいたい。

畦地会長：感想ということだが、それは計画づくりの中でぜひ強く話し合いをしていくこととしたい。その他ご意見等、いかがか。

それでは意見など、今回は出尽くしたようなので、本日の委員の皆様のご意見などを考え、計画案の策定を進めていただきたい。

以上で議事はすべて終了した。円滑な議事運営に協力いただきありがとうございます。それでは司会を事務局にお返しする。

事務局（栗田地域福祉高齢課長）：議題のその他であるが、本日ご意見をいただき、いろいろな想いや課題がだんだん浮き彫りになってきた。委託業者とも話し合いながら、次回の策定委員会までに骨子案をまとめて、事前に配布する。目をとおしていただき、策定委員会の場でご意見をいただきたい。

次回は9月14日（月）14時から15時半までを考えている。会場はココロかさなるCCNセンター（瑞穂市総合センター）2階交流ルームを考えている。時期が近づいたら改めてご案内させていただく。

それでは、これにて第2回瑞穂市地域福祉計画策定委員会及び第1回瑞穂市地域福祉活動計画策定委員会を閉会する。本日はありがとうございました。

以上